

28年10月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年 10月1日～ 28年10月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は10社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/10月	11月	12月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 22.2	△ 11.1	△ 16.7
	マツ	△ 38.9	△ 33.3	△ 33.3
	広葉樹	△ 20.0	△ 15.0	△ 15.0
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 18.8	△ 12.5
	マツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 27.8	△ 11.1	0.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 38.9	△ 16.7	△ 16.7
	マツ	△ 38.9	△ 33.3	△ 33.3
	広葉樹	△ 30.0	△ 10.0	△ 15.0

・チップ用国産原木の入荷、消費及び在庫は総じて3ヵ月連続して減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/10月	11月	12月
スギ・ヒノキ	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	△ 5.6
広葉樹	△ 10.0	△ 5.0	△ 5.0

・チップ用国産原木の購入価格は、スギ・ヒノキ及びマツ類は総じて3ヵ月連続して横ばい。広葉樹はやや弱含み。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・長雨もあり入荷量も大幅に減少。針葉樹はシステム販売が始まるので多少の増加があると思う。広葉樹は再生事業、システム販売へのシフト移動により減少傾向(東北)。
・国有林材の入荷で仕入れがやや増加、消費はほぼ安定(中部)。
・8月、9月と広葉樹の荷動きが(天候と用材の影響から)悪く、消費と在庫が減少(中国)。
・天候の影響で原木入荷がやや減少、翌月、翌々月は入荷横ばい。消費は当月は原木不足で減少。在庫は当月減少、翌月、翌々月は横ばい(四国)。
・9月は雨が多く思ったほど入荷は増えなかった。今月は農家兼業は農繁期で伐採は少な目、11月頃になれば兼業、専業の材が共に増えると予想。今月の消費は通常並み、11月は出荷先の定期点検で減産。先月から入荷少な目で、今月も在庫は減少(九州)。
・広葉樹が入らない(九州)。

(原木価格)

・全樹種、変更なし(東北)。
・製紙用、発電用とも価格変動なく安定(中部)。
・変動なし(中国)。
・変動なし(四国)。
・変わりなし(九州)。

28年10月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/10月	11月	12月
生産 動向	スギ・ヒノキ	△ 16.7	△ 8.3	0.0
	マツ類	△ 28.6	△ 28.6	△ 28.6
	広葉樹	△ 14.3	△ 14.3	0.0
出荷 動向	スギ・ヒノキ	△ 6.3	△ 6.3	0.0
	マツ類	△ 16.7	△ 22.2	△ 22.2
	広葉樹	△ 16.7	△ 15.0	0.0
在庫 動向	スギ・ヒノキ	△ 33.3	△ 25.0	△ 25.0
	マツ類	△ 42.9	△ 42.9	△ 42.9
	広葉樹	△ 31.3	△ 25.0	△ 25.0

・木材チップの生産及び出荷は、総じて減少傾向。在庫は3ヵ月連続して減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目		28/10月	11月	12月
スギ・ヒノキ類		△ 6.3	0.0	0.0
マツ類		0.0	0.0	0.0
広葉樹		0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格はスギ・ヒノキ類は、やや弱保合い。マツ類及び広葉樹は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・広葉樹の入荷減により出荷量が減少(東北)。
- ・製紙用・ボード用は大きな動きなし。発電用は冬に向けて材確保の動きある(中部)。
- ・8月、9月と広葉樹の荷動きが(天候と用材の影響から)悪く、消費と在庫が減少(中国)。
- ・当月生産減、翌月、翌々月は生産横ばい。当月原木入荷減で出荷やや減少、翌月、翌々月は横ばい。当月在庫はやや減少、翌月、翌々月は横ばい(四国)。
- ・製紙用の生産、出荷はいつもより抑えめで、その分を燃料用が補っている(九州)。
- ・広葉樹原木の入荷に応じた生産、出荷は翌月よりやや増加(九州)。

(木材チップ価格)

- ・原木同様、価格の変動なし(中部)。
- ・変動なし(中国)。
- ・当月価格値下げあり、翌月、翌々月は横ばい(四国)。
- ・製紙用は変わりなし(九州)。
- ・広葉樹は現状維持(九州)。